

# はっとい院長の健康トーク Vol.11

金沢市大友1丁目109番地

はっとい大腸肛門クリニック

服部 和伸

076-238-8101



## 大腸癌について

排便時に出血を認めた場合、その原因が大腸癌であることはまれなことではありません。今回は大腸癌についてお話しします。

最近、大腸癌は食生活の欧米化とともに急速に増加してきております。その最も多い症状は排便時の出血・便秘・便が細くなる・腹痛などです。その他には貧血症状（倦怠感・めまい・動悸）・体重減少・腹満感などがあります。

### 排便時の出血

一般的には痔疾患では真っ赤な出血で、紙についたり、ポタポタと落ちたりします。大腸癌では赤黒い出血で透明な粘液が混じったり、便のまわりに血がついたりします。初めは出血量も少なく気付かない程度ですので、日頃から便を観察することは大事なことになります。通常排便時に痛みをともなうことはありません。しかし、出血や粘液が多くなるといつもトイレへ行きたい感じがして、便の回数が多くなります。

大腸癌の患者さんの多くは痔ではないかと受診されますが、実際には出血のしかたで痔と区別できないことが多く、早期に検査を受けることをお勧めします。

### 症状

大腸癌が進んである程度大きくなりますと、腸の内腔が狭くなります。このため便が細く出にくくなります。この頃から便秘ぎみになったと感じて下剤を服用するようになります。便が通りにくくなると腸に便

が貯まり、腹痛・腹満感を感じるようになります。さらに癌が進行すると腸の内腔は完全につまって腸閉塞の状態になります。

### 検査

大腸癌は便の潜血検査・大腸内視鏡検査・バリウム造影検査などで診断します。ただし、便の潜血検査は進んだ癌を見逃すことはありませんが、内視鏡で切除できるポリープや早期癌の半分以上は見落としますので注意が必要です。いまのところ大腸癌が心配であれば大腸内視鏡検査やバリウム造影検査を受けることをおすすめします。

### 治療

早期癌であれば、内視鏡で切除できますが、進んだ癌になると、開腹手術が必要となります。特に直腸癌は進むと人工肛門が必要となることがあります。

先日、小泉首相も大腸のポリープを内視鏡で切除しましたが、これは症状がなくても積極的に検査を受けた結果です。

皆さんも心配であれば、積極的に検査を受けることをおすすめします。